

再 評 価 書

事業名	鳥羽港海岸高潮対策事業	事業区分	海岸事業	室名	港湾・海岸室
事業概要	工期	H3年～H25年	全体事業費	2,595.5百万円(負担率：国1/2：県1/2)	
	(下段：前回)	H3年～H23年	(下段：前回)	2,540百万円(負担率：国1/2：県1/2)	

事業目的及び内容

鳥羽港海岸は伊勢湾口志摩半島の北部に位置し、風光明媚な景観に恵まれ、リアス式海岸と相まって天然の良港を形成しています。当海岸の海岸保全区域延長は約9.4kmで、このうち岩崎地区・中之郷地区は、鳥羽市の玄関口である鳥羽駅や海の玄関口である佐田浜地区から観光名所である御木本真珠島、鳥羽水族館を結ぶ位置にあり、海岸背後には国道42号、近鉄志摩線が並行し、これに沿って人家や商店街が密集しています。

当海岸の既設護岸は、老朽化が進んでおり、天端高も不足しているため、一刻も早い施設整備が望まれているところです。当該事業は、この護岸の整備や改良を行うことにより、波浪や高潮等による災害を防除し、護岸背後の生命と財産を守る事業です。事業計画期間は平成3年度から平成25年度完了予定であり、全体事業費は、約26億円で計画しています。

【事業概要】

(岩崎地区) H3～H25 護岸(改良) L=628m、陸閘(改良) N=6基
 (中之郷地区) H18 陸閘(改良) N=4基

事業主体の再評価結果

1 再評価を行った理由

平成14年度岩崎地区の再評価実施後、一定期間が経過し、なお継続中ですので三重県公共事業再評価実施要綱第2条に基づき再評価をおこないました。なお、平成16年に監督官庁であります国土交通省港湾局の規定が変更となり、地区単位で実施しておりました再評価を海岸単位で実施するよう指導がありました。このため、鳥羽港海岸として、岩崎地区・中之郷地区の2地区をまとめて再評価をおこないました。

2 事業の進捗状況と今後の見込み

(事業の進捗状況)

岩崎地区につきましては、事業費24億7550万円に対して進捗率約53%であり、中之郷地区につきましては、平成18年度に事業を完了しております。鳥羽港海岸全体での事業費は25億9550万円であり、進捗率約55%となります。

地区名	工種	全体計画		全体事業費 (単位：千円)	施工済額 (単位：千円)	残事業費 (単位：千円)	進捗率
		全体	整備済み				
岩崎	護岸(改良)	628m	315.7m	(2,540,000) 2,295,500	1,245,500	1,050,000	54%
	陸閘(改良)	—	—	(0)	60,000	120,000	33%
小計				(2,540,000) 2,475,500	1,305,500	1,170,000	53%
中之郷	陸閘(改良)	—	—	(0)	120,000	0	100%
小計				(0) 120,000	120,000	0	100%
合計				(2,540,000) 2,595,500	1,425,500	1,170,000	55%

上段()：前回再評価時点

下段：今回再評価時点

(今後の見込み)

昨今の東南海・南海地震の発生が危惧され、津波による甚大な被害が想定されるなか、陸閘(改良)に重点投資を行い、平成18年度に中之郷地区の4基が完了し、平成19年度に岩崎地区の2基が完了予定です。これにより、前回再評価におきまして、平成23年度完成目標としておりました岩崎地区については、平成25年度完成を目標に事業を推進してまいります。

3 事業を巡る社会経済状況等の変化

各地区とも防護区域は、依然として海岸背後に人家が密集しており、防護の必要性に変化はありません。

近年地球温暖化等の影響により台風が大型化してきており、平成16年10月高知県菜生海岸においては、台風23号の激しい高波により海岸堤防が倒壊、背後の家屋13戸が被災し、3名の方が亡くなるという惨事になりました。また、平成14年4月には東海地震の防災対策強化地域、平成15年12月には東南海・南海地震の防災対策推進地域に指定されるなど、社会情勢の変化するなかで、老朽化護岸の補強改良、陸閘の改良（動力化）の必要性及びその機運は一層高まっています。

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元意向の変化等

4-1 費用対効果分析

地 区	評価基準年 : 2007年			
	便益 (B)	費用 (C)	B/C	備考
	浸水防護便益 (百万円)	整備費 (百万円)		
岩崎・中之郷地区	54,976	2,752	19.98	継続中

平成14年度に行った再評価時の費用対効果分析結果ではB/C=26.27でした。

今回、岩崎・中之郷地区でB/C=19.98と減少しているのは、平成16年度に「海岸事業の費用便益分析指針」が改訂され、公共土木施設・公共事業等被害額の算定比率が見直しされたことが原因となっています。

4-2 地元意向

当地区の護岸背後は市の中心部であり重要な公共施設や観光地・人家が密集していることから、依然として防護の必要性は高く、早急な整備が望まれているところです。

5 コスト縮減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト縮減

コスト縮減につきましては、計画時において出来るだけ既存施設を有効に活用することや、工区を細分化しより経済的な断面を採用するなど、設計時において可能な限りコストの縮減に取り組んでいます。

今後もさらに重点化を行って早期完成を目指すとともに、コスト縮減にも努めてまいります。

5-2 代替案

当地区のような、海岸背後に人家が連担している地区にとっては、海岸における護岸はいわゆる生命線です。地域住民の安心・安全の生活確保のため、この代替案は考えられず、また、現在の事業進捗状況から判断しても、現計画で進めることが妥当であると判断しています。

再 評 価 の 経 緯

当事業は、平成14年度に答申された再評価審査委員会の意見に対する対応を次のとおり行っています。

(答申)・再評価の結果、背後に密集した人家、公共施設等を高潮から保全するといった事業の必要性、事業の投資効果が認められることから、継続を了承する。

(対応方針)・事業を継続とします。今後もさらに重点化を行って早期完成を目指すとともに、コスト縮減にも努めてまいります。

当該鳥羽港海岸におきましては、可能な限り既存施設を活用し、部分的な補強改良による効率的な整備を推進しています。

事 業 主 体 の 対 応 方 針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。